

導は、薬剤管理指導業務の一環で、一定の施設基準を満たした上で行うことにより、1回350点の診療報酬が算定できる業務です。実際の指導内容は、透析のしくみ、透析液の成分とその働き、バッグ交換回数の理由、透析開始後中止する薬剤の理由説明等であります。

腎臓は薬剤が排泄される経路として最も重要な臓器であり、特に透析患者さんに腎排泄型の薬剤を通常量投与すると中毒性の副作用を起す可能性があります。それゆえ、薬剤を有効かつ安全に投与する為に、薬剤師として薬剤の動態や代謝についてもスタッフはもちろんのこと患者さんにも適確な情報提供を行うとともに、CAPD導入クリニカルパスへの改善にも寄与していきたいと考えています。

4) 外来看護師部門：「SMAPのクリニカルパス運用におけるCAPD外来看護師の関わり」

柏 美智・岡 由佳・椎谷 糸栄

中村 智絵・野瀬 優子

新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部

当院では平成16年2月から血液浄化療法部の看護師がCAPD外来に携わり、積極的に取り組みを始めました。CAPD外来では患者様の教育を通して、病棟で使用しているクリニカルパスに大きく関わっています。

外来で導入前の早い段階からCAPD、SMAPについて説明を行ない、治療に対するイメージをつかんでもらい、それと同時に本人または家族にバッグ交換の指導を行っています。カテーテル留置埋没術時は病棟を訪問し、バッグ交換の指導を行ない、出口部作成術前までに手技を習得できるよう、外来受診時に繰り返し指導を行っています。

外来看護師がクリニカルパスに関わることにより、病棟での患者様の教育に費やす時間を短縮でき、SMAPの導入により入院期間が短縮しました。また、外来看護師が導入前から導入後まで一貫して関わることにより、指導の継続と患者様に安心した入院生活を提供できるようになりました。今後は、外来におけるクリニカルパスを作成

し、スタッフ間での統一した患者様の指導と、病棟との連携を図っていきたいと考えています。

2 「長岡赤十字病院のクリニカルパス推進への取り組み」

山崎 時子

長岡赤十字病院

【目的】CPの推進を当院の中期計画にあげ取り組んだので、その経過及び課題を報告する。

【経過】平成13年1月よりCP推進委員会を立ち上げ、教育活動と発表会の運営を行った。平成15年には、CPのレベルアップのために、看護師を中心にしたCP学習会（基礎編、実践編）や院内研修会を開催した。「CPだより」を発行し、情報の共有を図った。平成16年には、各科メディカルから委員を選出するようにした。また、看護部内にCP推進委員会を立ち上げ、発表前に作成CPをグループで検討するようにした。

【結果】1. 作成要項に沿ったCPとなった。2. 患者用CPが作成された。3. 多職種がCP作成数は81例で、承認数は10例であった。病棟でのCP使用率は70～0%であった。

【課題】1. バリエーション分析・評価によりレベルアップを図る。2. DPC導入に向けた経済的効果を評価する。3. 承認CPの管理方法を整備する。

3 「胃粘膜下切除術のクリニカルパス」

志田知代子

長岡赤十字病院

長岡赤十字病院でのEMRの治療件数は年々増加しているため、CPを用いて在院日数の短縮や医療の標準化、患者満足度の向上に役立っている。2003年に従来使用していたCPを改変し使用したことで入院日数が最短で7日と、大幅に短縮された。又、そのCPを使用した症例を分析し、院内CP発表会で発表し、新たに修正を加えたことで2004年8月には院内CP推進委員会で承認された。CP作成は主に消化器内科病棟看護師が行い、医師や内視鏡室看護師、薬剤師、医事課職員